

高知へ1ターンでやってきました。高知に来た一番の目的は農業を行うためです。きっかけは祖父が家庭菜園をやっており、その手伝いで行った収穫が楽しかったからです。以前は神奈川で会社員をやっていたが、農業の研修を香川で2年間受



高知へ1ターン！

後藤 裕一さん
美穂さん
(大堀乙)

にこにこライフ

194



けてから移住しました。高知に来たのは平成23年の7月で、オクラやブロッコリーを主に栽培しています。今年は例年に比べてうまくできています。夫婦二人だけで全部やっています。性格ははつきりとした性格で、芯をもっているといわれます。農業をやっていると手が離せないことが多く、なにもできないうえに、数年に一度は実家の神奈川へ帰っています。うれしいときは野菜が売れた時です。1年目に栽培したブロッコリーをお客さんにもっとほしいといわれたのがとてもうれしかったのを覚えています。また、種まきや草取りなどの過程も楽しんで行っています。高知県は食べ物がいっぱい。かっつおのたたきがこんなにおいしいとは思いませんでした。野菜は自分でつくった野菜が一番おいしいです。また、高知の人は親切です。地主さんともすくなじめました。今後の目標については、現在、露地園芸のみですが、施設園芸をやりたいと思っています。中古ハウスを探していますが、なかなか見つかることができません。4月には窪川の園芸ハウスを見学に行かれたそうです。お話を聞くだけでも農業への熱い思いが伝わってきました！

市民からのお便り

(親子クイズ) 毎号楽しく見えています。今後も楽しいクイズ出して下さい。

親子クイズ 533

Q 矢印の方向に二字熟語ができるように、□に漢字を入れてください。□の3字でできる言葉はなんですか？

名
↓
半 → □ → 末
↓
給

精
↓
失 → □ → 社
↓
技

有
↓
皆 → □ → 口
↓
力

【第532回解答】

さなだまる

【第532回当選者】

杉本 一子 (稲 生)
西森 佳代 (里改田)
渋谷 萌馨 (植 野)
大峯 和巳 (岡豊町)
森 裕介 (岡豊町)

■応募締切/10月11日(火)必着
■あて先/〒783-8501
南国市大堀甲2301
南国市企画課「親子クイズ係」
*はがきで応募
■賞品/正解者の中から抽選で、5名に図書カード(1,000円)を贈呈

★応募総数/56通 ★正解率/98%

親子クイズは、広報委員が毎月順番に考えています。

市民からのお便り

(親子クイズ) 最近の問題はむづかしくて応募することが出来ませんでした。久しぶりです。

ふれあいつながって 67 人権学習シリーズ

本年4月14日と16日の両日に最大震度7の地震が熊本県を中心に発生しました。この度の地震で犠牲となられた方々へお悔やみを申し上げます。また、家屋の倒壊などにより今も避難生活を余儀なくされている方々へお見舞い申し上げます。今回の地震では、私達が経験したことのないことが起こりました。1度の大きな地震の後には余震のみしか起こらないという今までの経験は覆され、最大震度7の地震が2回も起こりました。これにより、1度目の地震で何とかが持ちこたえていた家屋が2度目の地震で倒壊し、被害が拡大する要因となりました。その後は避難所が各所に設置され、それに伴い熊本県内外から多くのボランティア希望者が集まると聞いています。4月22日に開設された熊本市の災害ボランティアセンターでは、最大約1300人の希望者が参加した日もあったそうです。また、今回の地震後には東京都銀座にある熊本県のアンテナショップで、普段の何倍もの売り上げを記録した日が続き、被災地に直接出向くことは出来なけれど、アンテナショップで熊

「支援の輪を繋げよう」

本県産の農産物や郷土品を買うことで間接的にでも支援をしたい、そう考えた人々が長蛇の列を作りました。アンテナショップに熊本県のキャラクター、くまモンが登場すると、握手や励ます人の中には、感極まって泣き出す人の様子がテレビで放映されていました。地震の発生から約6カ月が経とうとしています。被災地から遠く離れて生活する人達からは徐々に地震の記憶が薄れがちですが、現地では救急的な対応を終え、復興に向けた取り組みが本格的に始まっています。直接的・間接的支援の方法は多様です。今回の地震では以前からの教訓を生かし、被災地へ様々な方面から支援が寄せられています。復興に向けて私達もそれぞれ今出来ることは何かを考え、支援の輪を繋げていきたいものです。*このシリーズはあなたとあなたの周りにいる人の間に温かなつながりが生まれることを願い、人権について考えるきっかけになることを目的としています。

■問い合わせ
人権啓発広報委員会
880・6569

なんこく歴史散歩 第46回

南国市の桑ノ川には、地主神社という神社が鎮座しており、参勤交代に関する逸話が残されています。

ある年の参勤交代の行列が権若峠を越えて穴内川の上流に差し掛かったところ、主従一同が今でいう食中毒の症状で苦しみのあまり七転八倒してしまいました。それを聞いた桑ノ川の百姓が家伝の煎じ薬を持って献じたところ、殿さまも家来も嘘のように治り、元氣になりました。いたく感激した殿さまが、褒美としてこの辺りの土地を与えたことから、百姓は一躍大地主となりました。その地主の霊を祀ったのが地主神社と伝わっています。

－鳥居杉と地主神社－

い男女がいましたが、親の反対などでどうしても添い遂げることが出来ませんでした。その事をはか一方で、男が境内に向かっている間に、女が左に杉を植えたとのことでした。2人の想いを託されて、しっかりと結ばれた鳥居杉は縁結びのご利益があるとして、遠方からお参りに来る人もいます。鳥居杉は今も訪れる人たちの縁が末永く続くよう、静かに見守っていることでしょう。



鳥居杉と地主神社(桑ノ川)



■問い合わせ
生涯学習課文化財係
880・6569